



地域・産業振興で連携

八工大と青い森信金が協定

八戸工業大学(長谷川明学長)と青い森信用金庫(益子政士理事長)は25日、地域の発展と産業の振興に貢献するため「連携協力協定」を締結した。同大学と金融機関が同様の協定を結ぶの

協定書を手にする八工大の長谷川学長(左)と青い森信金の益子理事長

は5件目で、同信金が大学と結ぶのは初めて。

同信金の取引先である中小企業などが抱える生産環境などに関する課題の解決に、同大学の技術やノウハウを生かし、企業の成長につなげたいと、信金側が大学側に呼び掛けた。協力事項は①地域社会の発展と地域経済活性化②大学の研究成果③地域中小企業からの技術的相談―に関する情報交換と支援など5項目。

同大学で行われた協定締

結式では長谷川学長が「信金が持っている企業に関する情報と大学の知恵が一緒になって産業界を支えることができれば、地域発展に大きく寄与できるものと期待している」と述べた。益子理事長は「成長しうる企業の情報を大学に知らせ、新しいものを創造していくことは有意義であると考え」とし、大学と企業との橋渡し役を務める意欲を示した。

(岩村史生)